

里山整備・再生活動の紹介

チェーンソー・仮払い機 安全講習受講



安全講習受講後実践活動の開始





チェーンソーは、毎回作業終了後に欠かせられない刃の研磨作業、いつもありがとうございます。



ネザサの生育力は強く、常に刈り取り作業との追いかけて状態。ササユリなどの生育時期を考慮し、ササユリが新芽を出す前の作業として実施。



仮払い機の台数制限もあり、手鎌での刈り取りも欠かせられない作業。機械にはかなわないが仕方ない。



つる性植物も厄介者だが放置はできない。時には集中的な切り取り作業も欠かせない。

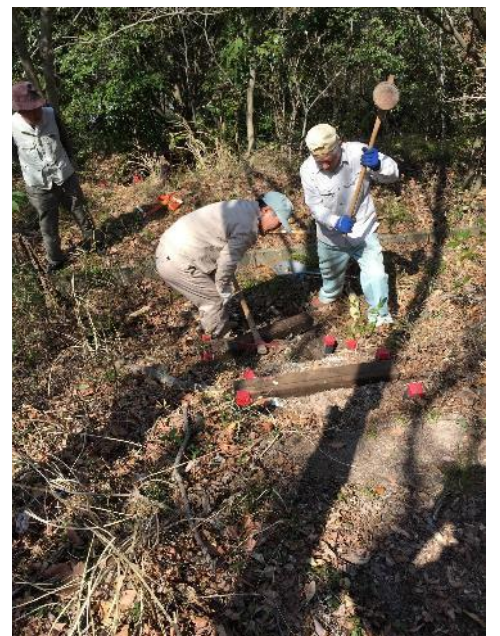


今後も里山グループにより整備されてきたエリアの拡大を目指す。

【落ち葉集めやチップづくり】



【作業用・林内散策・観察用の階段づくりやチップ敷き】





階段用の杭づくりも手間がかかるが重要な作業。



散策道や階段にチップ敷き



間伐木の小枝部分はチップ用、太い部分は運び出してまき割り機で割りチップ掛け。





年に数回は村内の馬事公苑へ馬糞堆肥をもらい、チップと混合。



山桜に大きなキイロスズメバチの巣を発見。
立ち入り禁止看板設置。

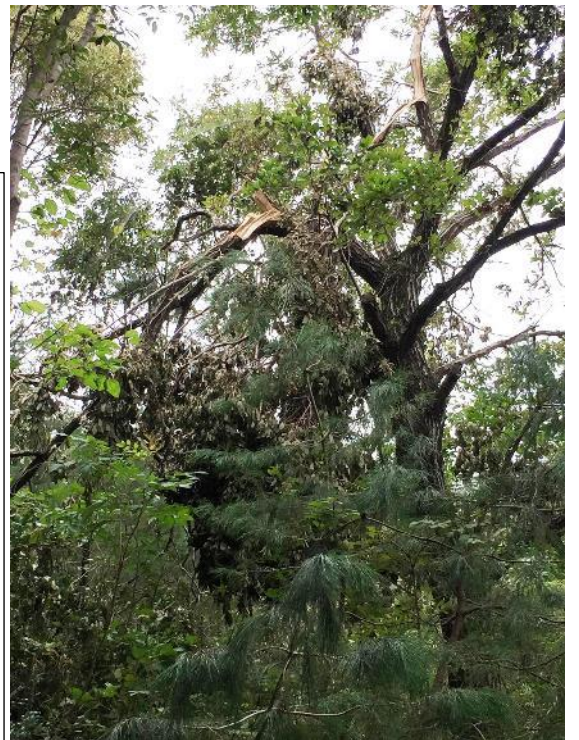


整備を進めていけば結構希少種の野草も芽生えてくる。
その保護のために立ち入り禁止区域への表示や、盗掘防止看板の設置も。



11 月頃になればササユリの種も熟し採種、ポット植えをして増やす試みもなかなか難しい。ササユリは寒い冬を 2 度超して 15 か月目の春にやっと 1 cm 程の 1 枚葉を出してくる。花が咲くまで球根が育つには 7 年かかる。しかも種から発芽して育っていく率は 1 % もないようだ。

2018 年 8 月の台風被害。しあわせの村緑地課の話では村内で 200 本を超える被害があったそうです。



【カシナガキクイムシ被害(ナラ枯れ被害)調査】

10年以上も前に東北の森林で始まった「ナラ枯れ被害」。徐々に南下し兵庫県でも但馬地方から南下の兆しを確認したことから、調査依頼を受け花実の森でも2011年8月に調査を実施。この時点ではそれらしき被害は確認できなかったが、その後、2017年9月にそれらしき現象を発見。再度調査と駆除作業を実施した。

幸い、カシナガキクイムシの種類の中でも、立ち木を食い荒らし枯れてしまう種類のものではなかったのか、枯損木には至らず被害の拡大にはいたっていない模様。村内では何本かの枯損木を伐倒・駆除処理をしたと緑地課から聞いている。

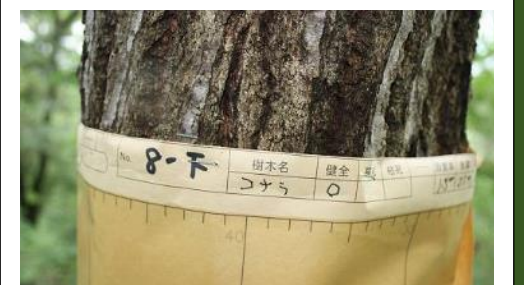
2011年の調査状況・・・商品名：カシナガホイホイ(ゴキブリホイホイタイプ)



粘着面を外側に巻き付けて飛来虫がくっつく調査



粘着面を内側に巻き付けて内から出てくる虫がくっつく調査



外部から飛来してくる成虫も、幹内部で羽化し成虫となって出て、次の木に向け飛来するキクイムシもこの時点では確認できなかった。

2017年9月の活動時に被害木発見、再調査。



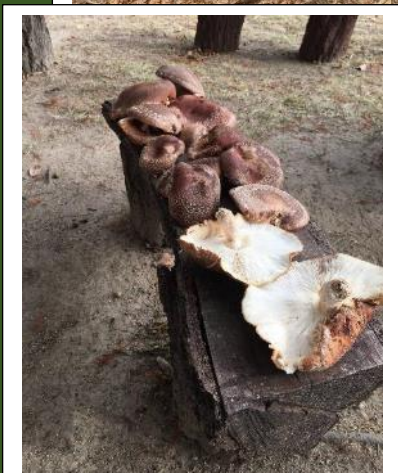
幹に侵入した成虫が出してくる



対象木に駆除資材の巻き付け作業



シイタケホダ木づくりと収穫



ときにはアケビやシバグリも。



活動終了時の団樂のひととき。